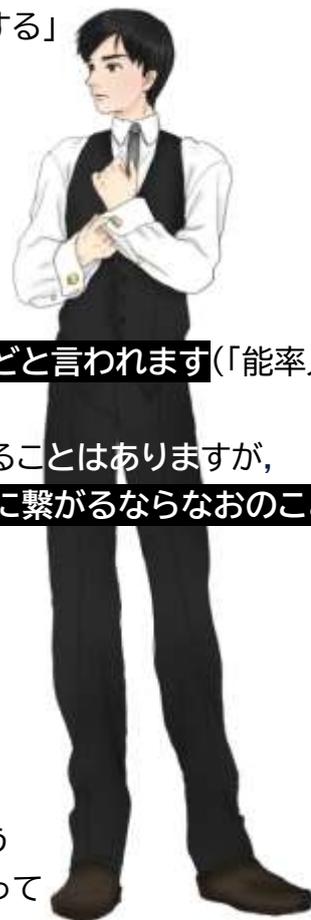


# Principal Correspondence

## 「第一印象で全てが決まる…？」

アメリカのビジネスマン向けの啓発書などを読むと、よく「第一印象で全てが決まる」などと書かれています。アメリカなどの様に、一回性の出会いでビジネスが進んでいくような社会は、第一印象は極めて重要で、「エグゼクティブはオフィスで上着を脱いだり、半そでのワイシャツを着たりしてはならない」「相手は服装を見て判断する」「靴をしっかりと磨くこと。そうしないと部下の緊張も緩んでしまう」「人は無意識に反応する」などと書かれています。

ホテルマンが暑くとも上着や長袖のワイシャツを着用するのはそのためで、そういえば(恐れ多いことではありますが)皇室の方々も半袖でなく、よく長袖のシャツをお召しになり、暑ければきちんと袖まくりをされているのを拝見します。



**心理学的には、人は初対面で、好き嫌いを 5~45 秒で決めるなどと言われます**(「能率人間のリラックス教本」ベストセラーズ, 板坂 元著)。

もちろん人は長く付き合うと良さがわかったり好きになったりすることはありますが、**第一印象が良いに越したことはありません。それが次のチャンスに繋がるならなおのことです。**

きちんとした服装の着こなしや、姿勢、清潔さ、笑顔、はきはきとさわやかな挨拶、受け答え、優雅な物腰などが大事です。

心がきれいなら、心が温かければ外見は何でも良いというのは映画の世界の話。普段はやらないけど、いざとなればやれるという人もよくおられますが、そういった松下政経塾の学生が代議士になって国会中継でポケットに手を入れて猫背で歩いている姿を見て、塾長の上甲晃氏は「こいつは首相にはなれないな」と思ったと述べています。

**リリーベール小学校では、少なくとも着こなしや姿勢、清潔さ、はきはきとした挨拶、受け答えは小さいうちの習慣として必要と考えます。**それは職員も例外ではなく、男子教員は夏でも毎週火曜日の全校朝会はネクタイとジャケットを着用する決まりになっています。暑いときにも暑がらず、寒いときにも寒がらず、**大人が悠々とした身のこなしで模範を見せることも大事です。**



# Principal Correspondence

## 夏は子どもの季節・勉強では育成できない知能が育ちます

脳の活性化の話です。人の脳が活性化した状態とは、どういう状態を言うと思いますか？「さわやかだ？」「興奮していてさえている？」「活発に活動している？」いろいろ考えられると思いますが、脳が活性化している状況とは一口に、脳に血流量が増加することを言います。血流量が増加することで代謝量が活性化し前頭連合野が働きます。

朝、ご飯を食べてこない子は(ほとんどは親が食事を食べさせないような悪い環境にあるのではなく、子どもが夜遅くまで起きており、朝ぎりぎりまで寝せているために、食欲がなくて食べないことが多いのです)、脳に唯一の栄養分の糖が補給されず、寝不足だったりすると午前中「ぼーっ」と過ごしたり「不機嫌」だったり、授業に集中ができません。これを3年、4年と積み重ねれば、たったこれだけで知能には大きな差がつきます。大体、人の能力の基礎・器が出来上がる臨界期(おおむね9~10歳)を越えてからでは遅いのです。

夏休みは生活が乱れがちですが、しっかりと規則正しく睡眠、食事(脳の栄養)を取るだけでIQは上がります(睡眠をしっかりと確保するだけでIQは10上がるという脳科学者もいます)。さらに夏休みは普段できない活動、様々なイベントがあります。脳の発達のために「わーっ」「どきどき」「わくわく」「ふしぎだ〜」「じわ〜」というような「感動体験」が必要といわれています。主に自然体験、いわゆる「夜空を仰ぎ満天の星を見た経験」「自分で屋外でご飯を炊いた経験」や「虫を捕まえた経験」。また文化的な体験、「博物館や図書館に行った経験」「コンサートに行った経験」などをしている子どもの方が知能が高いというデータもあります。感動体験が、脳を育むのです。

「特に森に入るだけで脳にはいろいろな周波数の情報が入るため活性化する！東京渋谷のスクランブル交差点より情報は多い」という学者もおられます。

夏は子どもの季節。学童保育では感動あふれた体験を用意しています。

